

2007年10月31日

プロデザイナーへの第一歩・卒業制作の日本一を競うコンペ

『MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2007』 受賞作品決定

三菱化学株式会社

未来の一流デザイナーを目指す学生の優れた“卒業制作”を表彰する『MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2007』(主催:MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 実行委員会、委員長:水野誠一、特別協賛:三菱化学株式会社、URL: www.m-kagaku.co.jp)の受賞作品が決定いたしました。

2007年3月に卒業したデザイン系学生の卒業制作を対象とし、応募総数233作品から大賞に選ばれたのは、前田彩さん(東京藝術大学 美術学部 デザイン科卒業)の『R100(レッドリストゼロ)』です。絶滅危惧生物を記したレッドリストから、森林伐採の影響により絶滅の危機にさらされている野生生物をモチーフにデザインしたティッシュボックスです。このティッシュボックスは、消費者に森林伐採による悪影響の改善を訴えるデザインになっており、さらに使用後の空き箱からその野生生物を組み立てられるペーパークラフトとして楽しめます。消費に一番近いところにあるティッシュボックスをデザインするという点と、現代社会を映し出すというメッセージ性のある優れた作品として高く評価されました。



大賞の『R100』。絶滅危惧生物をモチーフとした、100%再生紙を使用しているティッシュボックスのデザイン。空箱は、ペーパークラフトとして野生生物を組み立てられる。

その他の受賞作品は、佳作2作品、三菱化学賞1作品、各審査員による審査員特別賞10作品です。作品の詳細は別紙をご参照ください。

応募作品は、審査員長の水野誠一をはじめとする全10名の審査員が、独創性、デザイン性、機能性、実現性・経済性、社会への貢献を基準に、書類による一次審査、パネル・実物または模型による最終審査を行い選定しました。

今年で7回目を迎えた当アワードは、学生時代の集大成でありプロへの第一歩でもある“卒業制作”の表彰を通じ、デザイナーの支援とデザインの振興に寄与していくことを目指しています。

なお、デザイナーの力作を一人でも多くの方にご覧いただきたく、以下の通り受賞作品展を開催いたします。

【MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2007 受賞作品展】

開催場所: 東京国際フォーラム ガラス棟 B1F ロビーギャラリー
住所: 千代田区丸の内 3-5-1
TEL: 03-5221-9000(代表)
開催日時: 2007年11月15日(木)~18日(日) 11:00~19:00
入 場: 無 料

本件に関するお問い合わせ先

三菱化学株式会社
広報・IR室
TEL: 03-6414-3730

【受賞者一覧】

*共同制作者

賞	賞典	作品名	受賞者	出身校
大賞	トロフィー 賞金200万円	R I O O	前田 彩	東京藝術大学 美術学部 デザイン科
佳作	トロフィー 賞金50万円	文字の進化	朴 志勲	武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科
佳作	トロフィー 賞金50万円	そこにある皺	渡邊 洋治郎 藤田 光太郎* 森田 和也*	武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科
三菱化学賞	トロフィー 賞金50万円	Medial Support Eye	原 侑希	名古屋市立大学 芸術工学部 生活環境デザイン学科
水野 誠一賞	審査員選評入り盾	BOTECH-art	村山 誠	宮城大学 事業構想学部 デザイン情報学科 空間デザインコース
石井 幹子賞	審査員選評入り盾	dessin	佐々木 舞	筑波大学 芸術専門学群 構成専攻
榮久庵 憲司賞	審査員選評入り盾	地下水汚染における 飲料水供給ユニット"BAMBOO"	嶋野 宇一郎	名古屋市立大学 芸術工学部 視覚情報デザイン学科
柏木 博賞	審査員選評入り盾	Keep Writing	渡部 直也	多摩美術大学 美術学部 生産デザイン学科 テキスタイル専攻
河原 敏文賞	審査員選評入り盾	世界平均シミュレーション	栗原 里菜	武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科
坂井 直樹賞	審査員選評入り盾	百鬼妖怪絵巻	相良 侑子	京都嵯峨芸術大学 芸術学部 造形学科 メディアアート
都築 響一賞	審査員選評入り盾	Complex trail 日本の川 日本の道	高田 明来 内田 千絵*	武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科
日比野 克彦賞	審査員選評入り盾	擬度 擬音擬態・度合い事典	伊澤 克顕 佐藤 昌平*	武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科
向井 周太郎賞	審査員選評入り盾	GIVENESS -自分らしく身につけられる頸椎装具-	須賀 じゅん	多摩美術大学 造形表現学部 デザイン学科 プロダクトデザインコース
茂木 健一郎賞	審査員選評入り盾	日本人再教育玩具 ～アジの開きパズル～	増森 裕子	玉川大学 芸術学部 ビジュアルアーツ学科

[作品の詳細については、参考資料 2 および当アワードウェブサイト(www.m-kagaku.co.jp)をご参照ください。]

【MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2007 受賞作品 概要】

<大賞>

受賞者：前田 彩（東京藝術大学 美術学部 デザイン科 卒業）

作品名：R I O O

作品概要：レッドリストとは絶滅危惧の野生生物を記したものである。そのレッドリストから“森林伐採”が主要因で存続の危機にさらされている 11 種類の野生生物を選び、モチーフとしてティッシュボックスをデザインした。ティッシュペーパーの使用後は、その野生生物等をペーパークラフトとして組み立てられる。また、ボックスは勿論ティッシュペーパーも、100%再生紙を使用し、森林伐採による悪影響の改善をめざす。



<佳作>

受賞者：朴 志勲（武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科 卒業）

作品名：文学の進化

作品概要：文字の歴史を紹介するこの作品は、文字が変化していく段階をまとめたものです。現代を基準にし、時間的変化、地域的変化、形の変化という三つの視点から文字の歴史話を展開させていきます。古代文明の絵文字からアルファベットの始まり、そして文化の中で発展と伝播をつづけてきた文字の進化過程を 10 冊のしかけ本と 1 冊の地図の本、巨大砂時計で説明します。



<佳作>

受賞者：渡邊 洋治郎（武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科 卒業）

共同制作者：藤田 光太郎 森田 和也

作品名：そこにある皺

作品概要：私たちは「皺」に着目してデザインを考えてみる。張りを希求するだけではなく、皺をモノのポジティブな様相として見つめる。皺と張りは対極でありながらも表裏一体である。具体的には、身の回りで絶えず発生し、目にする皺を観察して要素を抽出する。そして、皺をモノのデザインに適用し、実在のプロダクトやヴィジュアルに一連のデザインのプロセスとして皺を活用してみることで、デザインの新たな視点や価値を提起していく。



<三菱化学賞>

受賞者：原 侑希（名古屋市立大学 芸術工学部 卒業）

作品名：Medical Support Eye

作品概要：Medical Support Eye (MSE) は在宅医療のためのトランスポーターである。MSE は在宅医療、予防医療、救急医療、災害医療のためのモバイルシステム Mobile Medical system の一部として機能する。遠隔医療の発達により、今まで病院でしか受けることができなかった高度な医療技術を在宅医療に持ち込み診療にあたる。そして今後も増加する在宅医療患者の負担を軽減することを目的とする。

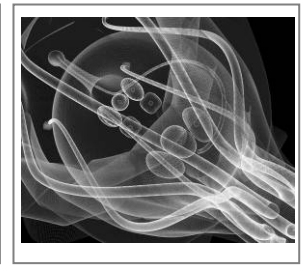


<水野誠一賞>

受賞者: 村山 誠 (宮城大学 事業構想学部 デザイン情報学科 卒業)

作品名: BOTECH-art

作品概要: ボタニカルアート(植物細密画)とテクニカルアート(機械の構造画)はモチーフの違いはあるが、高精細かつ壮麗な表現を特徴とし、解説図として情報伝達機能を有している点で共通しています。しかし、次第に解説的な役割は薄れ、代わりにその精確な描写が着目され細密壮麗な画風は観るものを魅了し、芸術品へと地位を高めていきました。これら二つを巧みに融合できれば、今までにないユニークな表現を創作できるのではないかと考えました。



<石井幹子賞>

受賞者: 佐々木 舞 (筑波大学 芸術専門学群 構成専攻 卒業)

作品名: dessin

作品概要: 生命の痕跡が隠蔽されがちである現代。そこに地球の大きな循環や、身近な不思議を取り入れ、自然と我々を繋ぐ媒体としての装置を模索しました。今回は特に、水が落下する事象をクローズアップ。どこにでもあって、けれど決して掴むことの出来ない水。我々の内にも外にも満たされている水。水が落ちる(循環する)のを「見」る事を通じ、隔絶されがちな空間に繋がりと、心に広がりを与えられればと、この装置を提案します。

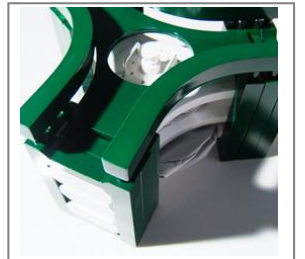


<榮久庵憲司賞>

受賞者: 嶋野 宇一郎 (名古屋市立大学 芸術工学部 視覚情報デザイン学科 卒業)

作品名: 地下水汚染地域における飲料水供給ユニット "BAMBOO"

作品概要: 現在世界では、安全な飲料水にアクセスできないために、毎日約6,000人の子供が水関連の病気で死亡しており、問題の早期解決が望まれています。数ある水問題の中で、現在特に問題とされているのが世界各地で報告されている地下水砒素汚染です。本提案では、既存のチューブウェルに接続し、水の砒素除去を行います。これによる飲料水の安全性確保を目的とし、それによる劣悪な水環境問題の早期解決に貢献することを目指しています。



<柏木博賞>

受賞者: 渡部 直也 (多摩美術大学 美術学部 生産デザイン学科 テキスタイル専攻 卒業)

作品名: Keep Writing

作品概要: ベージュ色のクラフト紙に黒のボールペンで描き続け、線と認識できなくなるくらいまで描くという行為を反復し続けました。その紙を生地としてウェアを制作しました。誰でもしている何気ない行為ですが非日常なまでに繰り返すことで新しい表情を引き出そうとしました。

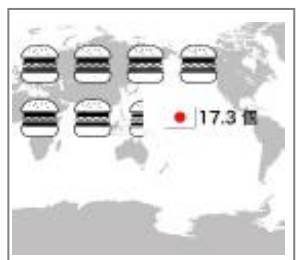
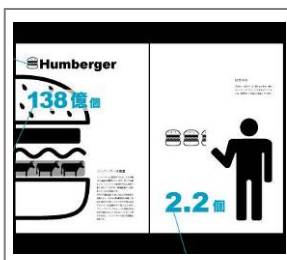


<河原敏文賞>

受賞者: 栗原 里菜 (武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科 卒業)

作品名: 世界平均シミュレーション

作品概要: 「権力の垣根が取り払われさえすれば、資源はすべての人間にとって十分にある」20世紀最大の思想家のひとり、B・フラーは著書のなかでこう述べています。私はこの文を読んだ時、そんなのは嘘だと思いました。彼の言うことが本当かどうか確かめてみよう。そしてそれをヴィジュアル化してみよう。このコンセプトのもと、世界中の様々な資源を64億で割り、一人あたりの平均値を直感的に理解できるアニメーションを制作しました。



<坂井直樹賞>

受賞者：相良 侑子（京都嵯峨芸術大学 芸術学部 造形学科 メディアアート 卒業）

作品名：百鬼妖怪絵巻

作品概要：古来の絵巻物の持つスクロールというインターフェイスに、インタラクティブ性を加えた電子版妖怪絵巻です。鑑賞者が触れることにより、平面に描かれた妖怪たちが3次元CG化し、動きはじめます。これまで妖怪は人々の心の中や絵や書物などの紙媒体の中に生きてきました。いま私たちはコンピュータによる仮想世界に足を踏み入れつつあります。そんな現代に妖怪をシフトアップさせれば、どうなるかを考えながら制作したものです。



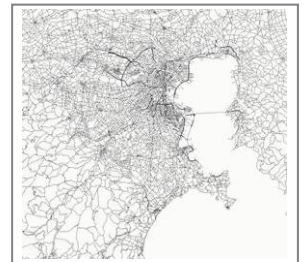
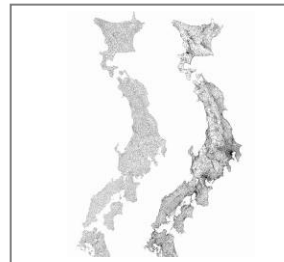
<都築響一賞>

受賞者：高田 明来（武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科 卒業）

共同制作者：内田 千絵

作品名：Complex trail 日本の川 日本の道

作品概要：「普段知ったつもりになっている事」を再認識させ、その「つもり」を新たに問い直し未知化する制作を試みました。テーマは「皺」。私達は地表の皺のレイヤーに着目しました。地表は荒々しい皺である、こう捉えた時、川と道、それぞれ自然と人々の営みの痕跡もまた皺なのではないでしょうか。「川＝自然の皺」「道＝人工の皺」として進めると、そこには皺地図から読み取れる様々な発見と、意識に馴染みきった日本とは異なる未知なる姿が存在しました。



<日比野克彦賞>

受賞者：伊澤 克顕（武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科 卒業）

共同制作者：佐藤 昌平

作品名：擬度 擬音擬態・度合い事典

作品概要：擬態語、擬音語は私達が日常よく使い、感覚、感情、様子の微妙な差異が言葉で表現されています。私達はその微妙な差異の中に「度合い」を発見し、それを「擬度」と名付け事典を制作しました。本作品はこの「度合い」を速度等の日常使われる単位や生活場面に当てはめ、そのスケール化を試みました。この作品を通して、言葉のニュアンスの違いや擬態語、擬音語の特性、また日常を再発見するきっかけになると私たちは考えています。



<向井周太郎賞>

受賞者：須賀 じゅん（多摩美術大学 造形表現学部 デザイン学科 プロダクトデザインコース 卒業）

作品名：GIVENESS-自分らしく身につけられる頸椎装具-

作品概要：私は生まれつき、筋性斜頸という首の筋肉に異常のある病気でした。その筋肉を切る手術を受けた際、術後三ヶ月半着けた経験を元に頸椎装具を制作しました。頸椎装具とは、頭の重みを支えて首の負担を軽くする、姿勢を保つなどの目的で使用される医療器具です。整形外科医、義肢装具士の方に意見を伺いながら制作し、むち打ち症の重度の人の治療に三週間使う程度なら問題ないと言って頂ける強度の物を制作しました。(特許出願中)



<茂木健一郎賞>

受賞者：増森 裕子（玉川大学 芸術学部 ビジュアルアーツ学科 卒業）

作品名：日本人再教育玩具～アジの開きパズル～

作品概要：この作品は箸を使って、すばやく焼き魚の身を組み立てることを競うパズルです。近年高齢化が進み、『脳』のトレーニングを目的としたゲームなどが注目されましたが他方、若い人の中には箸をうまく使えない人が増えているようです。そうした状況を基に考案したのが本作品です。高齢の方も若い人も、指先と頭を同時に使って遊びながら『脳』と『日本人力』を鍛えることができる。それが日本人再教育玩具なのです。



【審査員総評】

今回は、例年に比べて更に粒ぞろいの作品が集まった年だったのではないのでしょうか。指導教官のご理解とご協力に感謝いたします。

その中で、いつも苦慮するのは、作品がデザインとアートの領域に跨がるものが年々多くなっているということです。アートとして優れた作品でも、このアワードがデザインを対象にしているものなので、いかに評価すべきか審査委員が判断に迷う事例が年々増えてきています。もちろん、それ自体が現代を象徴する傾向であり、卒業制作という性格上、果敢な挑戦を求めるものなので、大いに歓迎すべき現象とも言えます。

本年は、特に大賞および三菱化学賞の選定に苦慮しました。佳作2点、各審査委員賞を含めて、どれが大賞にふさわしいかという討議にかなりの時間が掛かったからです。また、三菱化学賞も審査に参加していただいた三菱ケミカルホールディングスの富澤会長を交えて、同様の討議が重ねられたことを報告しておきます。

今後もさらに挑戦的かつ良質な卒業制作作品が応募されることを、審査委員一同希望して止みません。

審査員長 水野 誠一

審査員 石井 幹子、榮久庵 憲司、柏木 博、河原 敏文、坂井 直樹、
都築 響一、日比野 克彦、向井 周太郎、茂木 健一郎